



アルパインデビュー！

谷川 一ノ倉沢衝立岩中央稜

煤孫

【日時】 2011年6月19日 (日)

【メンバー】 L飯田、SL小川、煤孫、佐藤(里)

シーズンが始まった時はアルパインルートに行く気は全くなかった。佐藤(里)さんが作り出した渦に巻き込まれ、受身で過ごしているうちにアルパインデビューしてしまった。飯田さんから運が良いと言われた。天候に恵まれず、4回目でようやくデビューできた人もいたそうだ。

一ノ倉沢出合の駐車場まで車で入った。テールリッジを登り、取付までが怖かった。昨日の雨で岩が濡れていて、軽登山靴が滑った。ガバを掴んでいるので足を滑らせても落ちることはないが、落ちたら大怪我をしそうな場所もあった。ここが核心だったか。取付で順番待ちが長かった。飯田-佐藤(里)、小川-煤孫でザイルを組んだ。

1ピッチ目(小川リード)

先行パーティの確保地点まで見えていた。下から見て大して難しくなさそうだと感じた。登ってみてアップにちょうど良い感じだった。

2ピッチ目(煤孫リード)

最初回りこんでその先が見えなくなる。前のパーティが1ピン目をかけていたところを見ていたので、回り込んですぐにピンがあることは分かっていた。リードの最初だったので、回り込むところで緊張した。そこから先は簡単だった。

3ピッチ目(小川リード)

ここも最初に回りこんでその先が見えない。回り込むところが難しいので前のパーティが詰まっていた。回り込むところに間隔をあけずに2つピンがある。難しいのはそこだけで、そこから先は簡単だった。

4ピッチ目(小川リード)

核心のピッチ。登る前に小休止した。小川君が時間をかけてリードした。ホールドはあるがスタンスが細かい。スメアで登らないといけない部分があった。核心部分はA0してしまった。

5ピッチ目(煤孫リード)

最初の部分を覚えていないが、すぐにビレーヤが見えなくなったので最初に回りこんだのか。その先は階段状の登山道のようなところで容易だった。先行パーティが見えたところに終了点があったので、そこでビレーする。この先から雰囲気が変わる。

6ピッチ目(小川リード)

凹角を登ってフェースにでる。容易だった。

7ピッチ目(煤孫リード)

15mほど登った終了点で打ち切りとした。容易だった。

ここから懸垂下降を始めた。飯田さんの経験則からザイルを2本連結すると回収時にザイルが引っかかって登り返す羽目になるので、1本のザイルで25mずつ懸垂下降した。時間を短縮するために、ザイルを持っている人が先の下ってザイルをセットした。最終ピッチだけザイルを連結して懸垂下降した。

下山時はテールリッジの岩が乾いていたので登山靴でも滑らなかった。フィックスロープを使って下った。雪渓は軽アイゼンをつけて快適に下った。

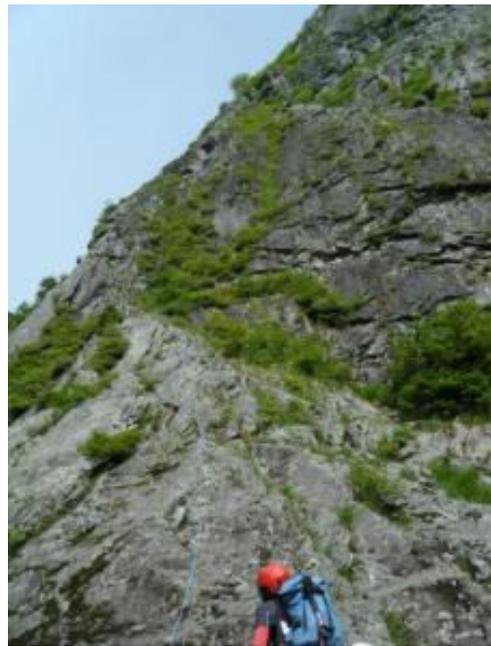
谷川は雪渓の状態から5月、6月がシーズンだそうだ。毎年この季節に1、2本くらいずつ登りたい。

トマに入る前に、ガイドとマルチピッチのルートに行ったことがある。そのときは怖かった。今回はかなり高度感のある場所もあったが全く怖くなかった。システムを理解してコントロールできていたことと、自分の技量とルートの難易度から考えて「自分が登れないはずがない」と確信していたからだろう。トマに入ってからずっとクライミングをやっていたが、ちょうどアルパインデビューすべき時期だったようだ。

リーダーの飯田さん、ザイルを組んだ小川君、渦を作り出して巻き込んでくれた佐藤(里)さんに感謝します。



写真左: 核心(?)のテールリッジ



写真右: 取付から見た1ピッチ目のルート

【行程】 6/19 駐車場(5:45発)～取付(7:15/50)～下降開始(12:40)～取付(14:30)～駐車場(15:40)

【地形図】 茂倉岳、水上